

事例7-6

取組名	町内のコミュニケーションの促進～組や常会単位の活動構築～		
町会名	ことばきもせ 寿百瀬町会（寿地区）	町会 データ	・人口／2,865人 ・世帯数／1,278世帯 ・高齢化率／24.75% ・町会加入数／618世帯 ・常会数／6常会 ・隣組数／71組
取組概要	○ 町内公民館の清掃の際に、常会から組に対し、お茶菓子代（補助金）を支出。 ○ 常会ごとに「ひざ懇」を開催して、町町会・常会のコミュニケーションを促進		

背景・課題

- ・ 住民の多くは、道路・公園等の草刈りや防犯灯の管理といった町会の活動を知らないため、恩恵を受けているという意識がない。
- ・ 定年退職後、家にいるという人が少ない。仕事をしながら町会の会議や行事にも出るということが負担感につながっている。
- ・ 仕事と町会活動の両立が難しいこともあり、役員の確保が難しくなっている。

経過・取組内容

- ・ 当町会の第1公民館では、毎月1回、いずれかの日曜日に公民館清掃を実施している。
- ・ 公民館清掃は、組が順番で回しているが、清掃後、組内での親睦を深めるため、常会からお茶菓子代を補助金として支出している。
- ・ 町会・常会からは「立ち話でもいいので、ぜひコミュニケーションを図ってください」とお願いしている。
- ・ 実際に茶菓子を買って茶話会を実施している組では、自己紹介や近況報告なども行っている。子どもと一緒に参加する世帯もある。
- ・ これとは別に、「常会ごとの座談会『ひざ懇』」も、町内6つの常会で開催している。常会住民全員を対象とした懇談会で、町会三役のほか、当該常会の組長と常会役員も出席する。
- ・ 年1回、6～7月に開催する常会が多い。常会長が司会を務め、意見・要望等に対し、町会三役などがその場で回答する。
- ・ 「役が大変」「配布物が多い」などといった意見のほか、「公園の木が邪魔なので伐採してほしい」

い」「カラスが巣をつくっているので撤去してほしい」といった要望もある。

- ・ 常会単位の活動として、このほかに、新年会やお花見を開催しているところもある。新年会は、1,000円の会費制で実施。全常会員が対象のため、100人近くが集まる常会もある。

成果・今後の展望等

- ・ 公民館清掃時の補助金は、実際にお茶会を開催してくれる常会もあり、組内のコミュニケーションに役立っている。
- ・ 常会単位の「ひざ懇」は、必ずしも関心が高い人が集まって来るわけではないが、地区や町会、常会、組といった各組織の役割について、住民の理解が深まっている。
- ・ 組・常会単位の活動は、町会活動の理解や人材の掘り起こし、災害時の助け合い、行政への要望事項の聴取などにもつながるため、今後も取組みを継続していく。

▶「百瀬町会のお知らせ」
町会コミュニケーションツールの一つ



【ポイント】

- ▼ 組・常会といった身近な単位でコミュニケーションを図り、町会内を活性化